

世界史探究

第1問 次の文章の（ 1 ）～（ 12 ）にあてはまる語を記せ。

6世紀中頃にアルタイ山脈周辺で勃興し、モンゴル高原の（ 1 ）を滅ぼして台頭したトルコ系の（ 2 ）は、中央ユーラシアの騎馬遊牧民族として初めて独自の文字を残した集団として知られている。（ 2 ）は、西方ではイランのサーサーン朝と同盟を結んで（ 3 ）を滅ぼし、東方では中国の北朝に圧力をかけた。その後、（ 2 ）は東西に分裂し、西側の集団は7世紀中頃に唐によって壊滅的な打撃を与えられ、やがて滅亡した。一方、東側の集団は、7世紀末に服属していた唐から独立を果たすものの、745年、モンゴル高原から台頭したトルコ系の集団ウイグルによって滅ぼされた。ウイグルは、755年にソグド系武人が唐に対して起こした反乱（ 4 ）の鎮圧に貢献するなど強勢を誇ったが、840年、モンゴル高原北部から起こった、同じくトルコ系の（ 5 ）によって滅ぼされた。なおウイグルは、西アジアに起源を持つ（ 6 ）を国教として採用したことでも知られている。

ウイグルの滅亡後、中央ユーラシアではトルコ系遊牧集団の西方への移動が活発化し、そうした集団の一つが10世紀中頃に（ 7 ）を建てた。イスラーム教を受容したこの王朝が中央アジアのオアシス都市に進出したことで、同地域のトルコ化が進展した。また、11世紀には、アラル海東岸で遊牧生活をしていたトルコ系集団が西アジアへと移動し、（ 8 ）を建てた。トゥグリル＝ベクが創始したこの王朝は、西アジア各地に勢力を拡大すると共に、アナトリアへも進出した。

14世紀初頭になると、アナトリア西部にオスマン1世を始祖とする国家が勃興し、その後およそ600年にわたって存続する巨大な帝国へと発展していった。第7代君主（ 9 ）は1453年にビザンツ帝国を滅ぼし、1529年にハプスブルク家の都（ 10 ）を包囲した第10代君主スレイマン1世の時代に帝国は最盛期を迎えた。しかし、17世紀以降はヨーロッパ列強の圧力にさらされ、徐々に勢力が衰えていった。外交政策や内政改革で統治の維持をはかったものの、19世紀に入る

と領域内のエジプト、シリア、バルカン半島などで民族自立の動きが活発化し、また、度重なる戦争の費用で経済が破綻した。最終的には、同盟国側で参戦した（ 11 ）の敗戦が大きな引き金となり、1923年、革命によりトルコ共和国が建国され、帝国は滅亡した。元オスマン帝国の軍人で、革命を主導した（ 12 ）は、共和国の初代大統領となり、近代化政策を押し進めた。

第2問 次の文章の（ 1 ）～（ 13 ）にあてはまる語を記せ。

南アジアでは、7世紀中頃にヴァルダナ朝が滅亡して以後、多数の地方国家が攻防を繰り返していたが、10世紀以降、そこにイスラームを信仰する集団が進出した。サーマーン朝の軍人であったアルプテギンがアフガニスタン南東部に建国した（ 1 ）は、南アジアに侵攻を繰り返した。その後、アフガニスタン中央部の山岳地帯から勃興し、（ 1 ）を滅ぼしたゴール朝も同様の動きを見せた。ゴール朝の将軍で、南アジア方面の統治を任された（ 2 ）は、デリーで独立したが、この王朝は（ 2 ）の出身身分に基づき（ 3 ）と呼ばれる。その後、北インドには、（ 4 ）、トゥグルク朝、サイイド朝、ローディー朝とイスラーム系の諸王朝が展開し、中央アジア方面から南下してくるモンゴル帝国やティムール朝と対峙した。デリーに拠点を置いたこれらの諸王朝は、（ 5 ）と総称される。

16世紀になると、ティムール朝の王子であった（ 6 ）が、1526年の（ 7 ）の戦いでローディー朝を撃破し、北インドにムガル帝国の基礎を築いた。実質的な帝国の建設者である第3代皇帝アクバルは、全ての官僚に官位を与えて序列をつけ、その位階に応じて給与と保持する騎馬の数を決めるという（ 8 ）や、測量に基づく徴税制度を導入し、中央集権体制を確立させた。また、北インドの大部分を平定し、首都を（ 9 ）へ移した。さらにアクバルは、宗教的に寛大な政策を実施し、非イスラーム教徒に課されていた人頭税を廃止するなどして、諸宗教の融和を目指した。

この時代には、文化的な融合も進み、イランや南アジア各地の画家が宮廷に招かれ、多くの細密画付き装飾写本が生み出され、地方語作品のペルシア語への翻訳も進んだ。また、地方語とペルシア語の融合も生じ、現在のパキスタンの公用語となっている（ 10 ）語が誕生した。

インド＝イスラーム建築の代表とされる（ 11 ）を築いた第5代皇帝シャー＝ジャハーンを幽閉して即位した第6代皇帝（ 12 ）は、南インドへも勢力を拡大させ、帝国の領土は最大となった。しかし、厳格なイスラーム信仰を表明した（ 12 ）は、地租の徴収を強化し、人頭税を復活させるなどし、ヒンドゥー教

徒から反発を招いた。帝国の各地では農民反乱が発生し、また西インドでは、反ムガル運動を指導するシヴァージーによって、ヒन्दゥー国家の建設を目指す（ 13 ）王国が創始されるなどし、第6代皇帝が死去すると、帝国は徐々に解体へと向かった。

第3問 以下の文の下線部は誤りである。正しい語に訂正し、解答欄に記せ。

- A) レコンキスタとは再生という意味で、14世紀にイタリアから始まって、以後西欧各国で展開された文化運動のことで、ギリシアやローマの思想や芸術を模範とし、教会と神を中心とする価値観から人間と自然を肯定的に捉える価値観への変換が図られた。
- B) 西欧中世の絵画は様式的にはビザンツ絵画の強い影響下にあったが、次第に写實的、人間的な表現が試みられるようになった。15世紀後半から16世紀初頭に生きた画家ブルネレスキは、代表作「アテネの学堂」のほかに柔和なタッチの聖母子像を数多く残した。
- C) 早くから商業の発展したイタリアでは、教会や王権と並行して都市自治を担う市民たちによる共和政体が成立していた。とくにヴェネツィアではメディチ家の保護の下に多くの芸術家が活動した。
- D) ミケランジェロはローマのシステイナ礼拝堂の祭壇壁画として、躍動的で力強い描写の「最後の晩餐」を描いた。
- E) 人文主義者のトマス＝モアは、その著書『愚神礼賛』で形骸化した当時の教会や聖職者の権威主義を風刺した。しかし、信仰における人間の自由意志の役割を強調した彼の思想は、後に宗教改革者のルターとの対立を生む。
- F) セルバンテスは、中世の騎士にあこがれて時代錯誤の悲喜劇を繰り広げる主人公を軸とする小説『ガルガンチュアとパンタグリユエルの物語』で名声を博した。

- G) 地球を中心とする古代のプトレマイオスの天動説に疑問を抱いたポーランドの天文学者ケプラーは、太陽を中心に地球やそのほかの惑星が回っているとする地動説を唱えた。
- H) 16世紀の宗教改革の時代にスペイン王位と神聖ローマ帝国皇帝位を兼ね、ヨーロッパ最大の領土を支配してカトリックを擁護した君主はフェリペ2世である。
- I) 人文主義者と違って、宗教改革の主導者たちは人間の自由意志よりも神の恩寵を重視し、ジュネーヴの指導者カルヴァンは、救済は善行などの人間の努力によるのではなく、あらかじめ神によって決められているという王権神授説を唱えた。
- J) カルヴァン派の広まったネーデルラント北部はスペイン統治下にあったが、経済的理由もあってこれに抵抗し、1581年に独立を宣言する。これがベルギーの始まりである。

第4問 次の文章の（ 1 ）～（ 8 ）にあてはまる語を語群から選び答えよ。また設問に答えよ。

アメリカ大陸の中南部には、ユーラシア、アフリカ大陸に匹敵する石造神殿やピラミッドを擁する古代文明が栄えていた。中米（メソアメリカ）地域では、カリブ海岸のラ＝ベンタ遺跡の巨大石頭像やジャガー神像を特徴とする（ 1 ）文明が前1200年以前から栄え、その後ユカタン半島に（ 2 ）文明、現メキシコ中南部の高原地帯に巨大な太陽と月のピラミッドを建設した（ 3 ）文明が成立した。メキシコ高原地帯では中央集権的な帝国が成立していたと推測されるのに対し、（ 2 ）は統一されず、都市を中心とする諸王国が並列していた。メキシコ高原ではその後トルテカ文明が10～12世紀に繁栄した後、スペイン人が到来する直前の16世紀初頭に（ 4 ）人が太平洋岸に至る広大な地域を統一する王国を建設していた。その首都（ 5 ）はテスココ湖と呼ばれる巨大な湖の上の島に築かれ、この跡地に現在のメキシコシティが建設される。

（ 2 ）では9世紀以降ユカタン南部の諸都市が衰退したが、その後北部乾燥地域で神殿諸都市が復興し、16世紀まで持続した。

南米のアンデス山脈地帯でも同時期に高度な文明が発達し、前1000年頃にチャビン＝デ＝ワンタル遺跡を中心とした文化が栄えたほか、地上絵で有名なナスカ文化や世界遺産の石造神殿のあるティアワナク文化などが栄えたのち、中米の（ 4 ）王国と同じく、スペイン人到来直前の16世紀には全アンデス地域を統一する（ 6 ）帝国が成立していた。メソアメリカおよびアンデス地域はトウモロコシのほか、（ 7 ）、カボチャ、サツマイモ、トマト、ピーマン、トウガラシなど、今日の食材の多くの原産地であり、征服以前の現地でも交易ネットワークを通じて豊かな食糧が相互に配分されていたと推測されている。A16世紀のスペイン人の征服は軍事的打撃のほか疫病や征服後の厳しい収奪などで先住民の著しい減少をもたらしたが、メキシコでは先住民と入植者白人との間に生まれた（ 8 ）が人口の多くを占めたため、スペイン本国からの独立に際してはキリスト教と現地信仰の融合したB褐色の聖母信仰が強調された。現在ではさらに（ 8 ）による統合にもなじめない先住民の伝統や文化との共存が中南米の多

くの国々の課題となっている。

【語群】

マヤ ミシュテカ オルメカ チムー タロイモ
チチェン=イツァー インカ サポテカ テオティワカン
ヤシュチラン アステカ ジャガイモ ティカル テノチティトラン
クスコ メステイーツ クリオーリョ サトウキビ

【設問】

A 次のうち、メキシコ高原地域を征服したのはだれか。

コルテス ピサロ マゼラン

B 褐色の聖母は現地の大地母神トナンツィンとイエスの母との融合とされる。

イエスの母の名をカタカナ3文字で記せ。